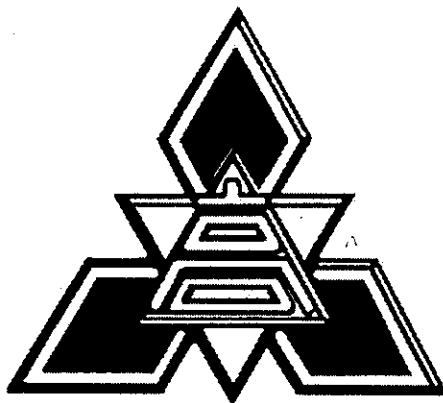


年間授業計画表

令和8年度 2年 普通科



SHINMINATO HIGH SCHOOL

富山県立新湊高等学校

2年普通科 年間授業計画表目次

| ページ | 教科名 | 科目名 | 単位数 | コース | 必修・選択の別 |
|-----|------|--------------|-----|--------|---------|
| 1 | 国語 | 論理国語 | 2 | 全 | 必修 |
| 2 | 国語 | 古典探究 | 3 | 英語系・文系 | 必修 |
| 3 | 国語 | 古典探究 | 2 | 理系 | 必修 |
| 4 | 地理歴史 | 地理探究 | 2 | 英語系・文系 | 選択 |
| 5 | 地理歴史 | 日本史探究 | 2 | 英語系・文系 | 選択 |
| 6 | 地理歴史 | 世界史探究 | 2 | 英語系・文系 | 選択 |
| 7 | 公民 | 公共 | 2 | 全 | 必修 |
| 8 | 数学 | 数学Ⅱ | 3 | 英語系・文系 | 必修 |
| 9 | 数学 | 数学Ⅱ | 3 | 理系 | 必修 |
| 10 | 数学 | 数学Ⅲ | 1 | 理系 | 選択 |
| 11 | 数学 | 数学B | 2 | 英語系・文系 | 必修 |
| 12 | 数学 | 数学B | 1 | 理系 | 必修 |
| 13 | 数学 | 数学C | 1 | 全 | 必修 |
| 14 | 数学 | 数学探究β | 1 | 理系 | 選択 |
| 15 | 理科 | 物理基礎 | 2 | 理系 | 必修 |
| 16 | 理科 | 物理 | 1 | 理系 | 選択 |
| 17 | 理科 | 化学 | 2 | 理系 | 必修 |
| 18 | 理科 | 生物基礎 | 2 | 英語系・文系 | 必修 |
| 19 | 理科 | 生物基礎 | 2 | 理系 | 必修 |
| 20 | 理科 | 生物 | 1 | 理系 | 選択 |
| 21 | 理科 | 地学基礎 | 2 | 英語系・文系 | 必修 |
| 22 | 保健体育 | 体育 | 2 | 全 | 必修 |
| 23 | 保健体育 | 保健 | 1 | 全 | 必修 |
| 24 | 芸術 | 音楽実践 | 1 | 文系・理系 | 選択 |
| 25 | 芸術 | 美術実践 | 1 | 文系・理系 | 選択 |
| 26 | 芸術 | 書道実践 | 1 | 文系・理系 | 選択 |
| 27 | 外国語 | 英語コミュニケーションⅡ | 4 | 全 | 必修 |
| 28 | 外国語 | 論理・表現Ⅱ | 2 | 全 | 必修 |
| 29 | 情報 | 情報Ⅰ | 2 | 全 | 必修 |
| 30 | 英語 | 上級時事英語 | 1 | 英語系 | 必修 |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | |
|----------------------|---|---|------------------|-----|--|-----|-----|----|------|
| 学年 | 2 | 科・系 | 普通科 | 単位 | 2 | 教科 | 国語 | 科目 | 論理国語 |
| 学習教材 | 教科書 「論理国語」大修館書店 | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 (3) 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につけることができる。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1学期 | <ul style="list-style-type: none"> 「世界を広げる『批評』の言葉」 「言葉を定義する」 「ミロのヴィーナス」 「余白の美学」 「家族化するペット」 「統計資料から分析したことを書く」 | <ul style="list-style-type: none"> 主張を支える根拠や結論を導く論拠をとらえ、要旨を把握する。 情報を客観化、相対化して明確に考え、言葉に向き合う。 本文の比喻表現に注意しながら、認識や思考と言葉との関係を考える。 具体例の果たす役割を理解し、書き手の立場を考える。 本文と統計資料の関係に注目して、さまざまな観点から自分の考えを深める。 統計資料を根拠として読み手に納得してもらうための文章の構成について学ぶ。 | | | | | | | |
| 2学期 | <ul style="list-style-type: none"> 「自己をモデル化する知能」 「科学は生きている」 「立場を明確にして書く」 「敬語への自覚、他者への自覚」 「スキーマと記憶」 | <ul style="list-style-type: none"> 根拠や論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して読み取る。 効果的な段落構成や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について考える。 主張と根拠をとらえた要約について学び、自分の意見を書く。 言葉と社会の関係について考えを深める。 記憶や学習におけるスキーマの働きを理解し、ものの見方を広げる。 | | | | | | | |
| 3学期 | <ul style="list-style-type: none"> 「社会的実在としての言語・法・貨幣」 「分かち合う社会」 「心に『海』を持って」 「世界は、いま」 | <ul style="list-style-type: none"> 具体的なエピソードに注目しながら社会に対する認識を深める。 学説を引きながら論述する文章を読み、主張をとらえる。 文明と海や人との関係を知り、普遍的な文明について理解を深める。 グローバル時代における文化の多様性の価値を考える。 | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 筆者の意見と具体例の関連性を理解し、学習の見通しをもって調べた身近な例を整理・分析して自己把握についての考えをまとめ、他者に伝えようとしている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | ③ | | | | |
| | ㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨ノート点検 | | ㊦定期考査 ㊧授業プリント | | ㊦ルーブリックによる相互評価 ㊧各種課題提出状況 ㊨話し合い活動への参加状況 ㊩授業プリントの記述内容 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・英文 | 単位 | 3 | 教科 | 国語 | 科目 | 古典探究 | |
|---------|--|---|------------------|--|---|---|-----|-----|------|-----|
| 学習教材 | 教科書 「高等学校 古典探究」 数研出版 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 長年にわたって伝えられ、現代においても、なおその価値を保つ古典としての古文と漢文を読むことができる。 (2) 古典に描かれた、現代に共通するものの見方・感じ方・考え方や、古典独特のものの見方・感じ方・考え方を的確に読み取ることができる。 (3) 古典の豊かな世界に触れ、古典に親しむ態度を身につけることができる。 | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 十訓抄、沙石集 伊勢物語、大和物語 買履忘度、漱石枕流 華歌・王朗、画竜点睛 江南橋為江北枳 枕草子、更級日記 絶句、律詩 | | | <ul style="list-style-type: none"> 助動詞に注意して文脈をとらえ、登場人物の心情を読み取る。 和歌の修辞法を理解し、和歌の内容と文章の関係を踏まえ、登場人物の心情を読み取る。 否定、疑問、選択、使役の句法を理解する。 孫子荊の表現の面白さについて、自分なりの考えを形成する。 作者の感性の特異性を理解する。敬意の方向を理解する。 語句や表現に注意して文脈をとらえ、作者の物語に没頭する様子を読み取る。 漢詩の構成上、音声上の規則を理解して、読み味わう。 | | | | | | |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 源氏物語 鴻門之会 四面楚歌 方丈記、徒然草 漁父辞、桃花源記 | | | <ul style="list-style-type: none"> 語句や表現に注意して文脈をとらえ、光源氏の藤壺に対する心情をまとめる。 文章に出てくる句法を理解し、正しく現代語訳する。 日本語としての「四面楚歌」という言葉が歴史的に見てどのように成立してきたかを理解する。 「無常」に対する作者の考えに共感したり、疑問に思ったり、思索したりする。 主題を表している一文を抜き出し、作者がそのように考える根拠について考察する。 屈原と漁父の問答について、それぞれの考えをまとめる。 | | | | | | |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 大鏡 論語、孟子、荀子、老子、莊子 平家物語 | | | <ul style="list-style-type: none"> 登場人物に使われる尊敬表現に特徴があることを理解する。 道隆、道兼、道長の人物像をまとめ、比較する。 儒家と道家の思想を比較し、それぞれ人間の生き方についてどのような点を重視しているかをまとめる。 軍記物語の登場人物がどのように描かれているか、史実も参考にしながら読み取る。 | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解する。 時間の経過による言葉の変化、古典が現代の言葉の成立にもたらした影響について理解する。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 内容を考察し、学習課題に沿って話し合いに参加する。 作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ㊦定期考査 ㊦小テスト ㊦ノート点検 | | ㊦定期考査 ㊦授業プリント | | | ㊦ルブリックによる相互評価 ㊦各種課題提出状況 ㊦話し合い活動への参加状況 ㊦授業プリントの記述内容 | | | | |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | |
|----------------------|--|---|------|--|------------|-----|---|-----|------|
| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・理 | 単位 | 2 | 教科 | 国語 | 科目 | 古典探究 |
| 学習教材 | 教科書 「高等学校 古典探究」 数研出版 | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 長年にわたって伝えられ、現代においても、なおその価値を保つ古典としての古文と漢文を読むことができる。 (2) 古典に描かれた、現代に共通するものの見方・感じ方・考え方や、古典独特のものの見方・感じ方・考え方を的確に読み取ることができる。 (3) 古典の豊かな世界に触れ、古典に親しむ態度を身につけることができる。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1学期 | <ul style="list-style-type: none"> 十訓抄、沙石集 伊勢物語 買履忘度、華歎・王朗、江南橋為江北枳 枕草子 絶句、律詩 | | | <ul style="list-style-type: none"> 助動詞に注意して文脈をとらえ、登場人物の心情を読み取る。 和歌の修辞法を理解し、和歌の内容と文章の関係を踏まえ、登場人物の心情を読み取る。 孫子荊の表現の面白さについて、自分なりの考えを形成する。 主人公が書いた竜の絵の特徴をまとめる。使役の句法を理解する。 作者の感性の特異性を理解する。敬意の方向を理解する。 語句や表現に注意して文脈をとらえ、作者の物語に没頭する様子を読み取る。 漢詩の構成上、音声上の規則を理解して、読み味わう。 | | | | | |
| 2学期 | <ul style="list-style-type: none"> 源氏物語 鴻門之会 四面楚歌 方丈記 漁父辞、桃花源記 | | | <ul style="list-style-type: none"> 語句や表現に注意して文脈をとらえ、光源氏の藤壺に対する心情をまとめる。 和歌に描かれている情景表現を注意して読み、登場人物の状況を捉える手がかりとしている。 文章に出てくる句法を理解し、正しく現代語訳する。 日本語としての「四面楚歌」という言葉が歴史的に見てどのように成立してきたかを理解する。 「無常」に対する作者の考えに共感したり、疑問に思ったり、思索したりする。 屈原と漁父の問答について、それぞれの考えをまとめる。 | | | | | |
| 3学期 | <ul style="list-style-type: none"> 大鏡 論語、孟子、荀子、老子 平家物語 | | | <ul style="list-style-type: none"> 登場人物に使われる尊敬表現に特徴があることを理解する。 道隆、道兼、道長の人物像をまとめ、比較する。 儒家と道家の思想を比較し、それぞれ人間の生き方についてどのような点を重視しているかをまとめる。 軍記物語の登場人物がどのように描かれているか、史実も参考にしながら読み取る。 | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解する。 時間の経過による言葉の変化、古典が現代の言葉の成立にもたらした影響について理解する。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 内容を考察し、学習課題に沿って話し合いに参加する。 作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。 | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | | ② | | | ③ | | |
| | ㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨ノート点検 | | | ㊦定期考査 ㊧授業プリント | | | ㊦ルブリックによる相互評価 ㊧各種課題提出状況 ㊨話し合い活動への参加状況 ㊩授業プリントの記述内容 | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・英文 | 単位 | 2 | 教科 | 地理歴史 | 科目 | 地理探究 |
|---------|---|--|---|-----|-----|--|------|----|------|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「新詳地理探究」帝国書院 ・「新詳高等地図」帝国書院 ・「新編地理資料2025」東京法令出版 ・「サクシード地理2026」啓隆社 | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 地形、気候、資源、農工業、交通、観光などに関わる諸事象の規則性や課題解決への取り組みが理解できる。 (2) 世界の諸地域の主題図等を踏まえて地域区分する地理的技能を習得できる。 (3) 持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究することができる。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・地形 ・気候 ・日本の自然環境 | | 地形の特徴や成因と人間活動との関係性について理解できる。 気候の違いの要因と人間生活に及ぼす影響が理解できる。 南北に細長い日本列島には、山地や平野、亜寒帯から亜熱帯にわたる気候など、多様な自然環境について理解する。 日本の自然環境にはどのような特徴があり、その特徴は自然災害とどのように関係しているのか考察する。 持続可能な社会を作り出す取り組みが理解できる。 | | | | | | |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業 ・食料問題 | | 農林水産業の分布や発達の規則性などが理解できる。 食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 食料問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。 エネルギーの利用や生産、消費の不均衡解消を考察する。 持続可能な社会を実現するための考え方を習得する。 | | | | | | |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー・鉱産資源 ・資源・エネルギー問題 | | 世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのように生活や産業に利用されているか、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解する。エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。 これまでの資源・エネルギー問題の考え方に対し、今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要かについて、多面的・多角的に考察する。 | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組について理解できる。 ・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる事象の意味や意義、特色を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、地域などに着目して、概念などを活用して多面的、多角的に考察できる。 ・地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりできる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚を深めようとしている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | ㊦定期考査 ㊧副教材問題集解答 ㊨ワーク点検 | | ㊦定期考査 ㊧授業プリント | | | ㊦自作問題等のプレゼンテーション ㊧各種提出状況 ㊨討論への参加状況 | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・英文 | 単位 | 2 | 教科 | 地理歴史 | 科目 | 日本史探究 |
|---------|---|--|--|-----|-----|--|------|----|-------|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「日本史探究」実教出版 ・「最新日本史図表」第一学習社 ・「日本史探究マイノート」実教出版 ・「日本史重要語句 Check List」啓隆社 | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解し、諸資料から情報を調べまとめることができる。</p> <p>(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統や文化の特色などを、多面的・多角的に考察し、課題を把握し解決策を構想し、考察、構想したことを説明したり、それを基に議論したりすることができる。</p> <p>(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うことができる。</p> | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 原始・古代の日本と東アジア ・日本文化のあけぼの ・ヤマト政権の成立と古墳文化 ・律令国家の形成 ・古代の国家・社会の変容 | | <ul style="list-style-type: none"> ・日本列島最古の文化 ・縄文時代の社会と文化 ・弥生時代の社会と文化 ・小国の分立と邪馬台国 ・古墳の出現とヤマト政権の確立 ・ヤマト政権の展開と統治の進展 ・古墳時代の生活と文化 ・古代国家の形成 ・飛鳥文化・白鳳文化 ・律令制度 ・奈良時代の政治 ・律令体制再編期の政治と社会 ・摂関政治の成立と支配体制の転換 ・国風文化 | | | | | | |
| 2 学期 | 中世の日本と世界 ・荘園公領制の成立と院政 ・中世の国家・社会の展開 ・中世の国家・社会の変容 | | <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の成立と朝廷 ・中世に生きる人々 ・蒙古襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化 ・南北朝の動乱 ・室町幕府の政治と外交 ・室町社会の展開と応仁の乱 ・室町文化 ・戦国大名の分国経営 | | | | | | |
| 3 学期 | 近世の日本と世界 ・東アジア世界の変容と天下統一 ・幕藩体制の成立と展開 | | <ul style="list-style-type: none"> ・織豊政権 ・天下統一の完成 ・近世成立期の文化 ・幕藩体制の成立 ・貿易の統制と対外関係 ・近世社会のしくみ ・幕藩政治の展開 ・経済の発展 ・元禄文化と学芸の発展 | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 ・歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取ることができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究し、意欲的に解決しようとしている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ⑦定期考査 ⑧準拠ノート ⑨小テスト | | <ul style="list-style-type: none"> ⑦定期考査 ⑧準拠ノート ⑨授業プリント | | | <ul style="list-style-type: none"> ⑦ワンペーパーポートフォリオ ⑧ルーブリックによる評価 ⑨討論・授業への参加状況 | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・英文 | 単位 | 2 | 教科 | 地理歴史 | 科目 | 世界史探究 |
|---------|--|--|--|-----|-----|-----|------|----|-------|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「詳説世界史」山川出版社 ・「詳説世界史授業用整理ノート」山川出版社 ・「NEW・STAGE 世界史詳覧」浜島書店 ・「詳説世界史 10分間テスト」山川出版社 | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 歴史的諸事象を多面的に理解し、資料を適切に調べまとめることができる。</p> <p>(2) 歴史的諸事象を多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて構想したことを効果的に説明し、議論することができる。</p> <p>(3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うことができる。</p> | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1学期 | 世界史へのまなざし 文明の成立と古代文明の特質 中央ユーラシアと東アジア世界 南アジア世界と東南アジア世界の展開 | <p>地球環境や日常生活から歴史を学ぶ意義を理解する。</p> <p>各地の古代文明がどのような特徴をもっていたのか、またそれらに共通する点を理解する。</p> <p>中央ユーラシアと東アジアがそれぞれどのような特徴をもち、どのような関係にあったか理解する。</p> <p>南アジアで生まれた宗教や文化の広がりや東南アジアはどのような社会を築いたのか理解する。</p> | | | | | | | |
| 2学期 | 西アジアと地中海周辺国家の国家形成 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ヨーロッパ世界の変容と展開 | <p>西アジアと地中海周辺に現れた諸国家の特徴を理解する。</p> <p>イスラームは西アジア・ヨーロッパの人々や社会にどのような影響を与えたのか理解する。</p> <p>イスラーム教はどこまで広がり、諸地域をどのように結びつけたのか理解する。</p> <p>中世ヨーロッパにはどのような特徴があり、どのように変化したのか理解する。</p> | | | | | | | |
| 3学期 | 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 | <p>東アジアの諸国家はどのような性格をもち、またモンゴル帝国はどのような役割をはたしたのか理解する。</p> | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・各時代における事実的な知識を習得し、関係図などの概念的理解と結びつけることができる。 ・資料から読み取れることなどを、他者との意見交換をとおして自分の考えに反映できる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な事象のもつ意味や事象間の関係性について、知識や概念、資料を根拠に説明できる。 ・「因果関係」「視点の転換」「史料の作り手の意図や背景」「比較」などから問いを表現できる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の歴史の大きな枠組みに関わる諸課題と我が国の歴史との関連を自分の言葉で説明する。 ・世界の諸地域の歴史を学ぶことを通して、他国の文化を尊重することの大切さを自覚する。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | ③ | | | | |
| | ⑦定期考査 ⑧小テスト ⑨ノート点検 | ⑦定期考査 ⑧授業プリント ⑨レポート | ⑦討論への参加状況 ⑧授業プリント ⑨ルブリックによる自己・相互評価 | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通科 | 単位 | 2 | 教科 | 公民 | 科目 | 公共 | |
|---------|--|--|------------------|---|---|--|-----|-----|-----|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 公共 (東京書籍) ・資料集 最新図説公共 (浜島書店) ・問題集 公共ワークノート (東京書籍) | | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 現代の諸課題を捉え考察し、諸資料から調べまとめることができる。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。 (3) 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うことができる。 | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間をつくる私たち ・公共的な空間における人間としての在り方生き方 ・公共的な空間における基本的原理 ・民主政治と私たち | | | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期の課題について考察する。 ・先人の思想を手がかりに、課題解決の方法について考察する。 ・社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割、及びそれぞれの課題について理解できる。 ・民意を反映した政治を実現するための現状課題について、世論調査、投票率、選挙結果との関連から理解ができる。 | | | | | | |
| 2学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・法の働きと私たち ・経済社会で生きる私たち ・私たちの職業生活 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳を含む社会規範における法の特徴、法の役割、法の区分とそれぞれの特色について理解できる。 ・経済活動の意義、経済主体と経済環境、グローバル化のなかの経済活動の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解できる。 ・働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割などについて、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解できる。 | | | | | | |
| 3学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会のなかで生きる私たち ・持続可能な社会づくりに参画するために | | | <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解できる。 ・現代の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。 | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標「B」(おおむね満足できる)の規準 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解することができる。 ・諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現したりしている。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現に向けて、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・知識及び技術を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨ノート点検 | | ㊦定期考査 ㊩課題レポート | | | ㊦カンパニーポートフォリオ ㊧ルブリックによる相互評価 ㊨各種提出状況 ㊩討論への参加状況 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・英文 | 単位 | 3 | 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ⅱ | |
|---------|---|--|----------------------------------|----|---|------------|-----|-----|-----|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「NEXT 数学Ⅱ」数研出版 「CONNECT 数学Ⅱ 新課程」数研出版 「チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C 新課程」数研出版 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 数学Ⅰの内容をさらに発展・拡充させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、より高度な能力を身につける。</p> <p>(2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。</p> | | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 第3章 図形と方程式 点と直線 円 軌跡と領域 | <ul style="list-style-type: none"> 座標平面上の2点間の距離、内分点、外分点の座標を求める。 2直線の平行・垂直条件を理解する。 点と直線の公式を理解する。 円外の点から引いた接線の方程式を求める。 2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べる。 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求める。 直線、円を境界線とする領域を図示する。 領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解する。 | | | | | | | | |
| 2 学期 | 第4章 三角関数 三角関数 加法定理 第5章 指数関数と対数関数 指数関数 対数関数 | <ul style="list-style-type: none"> 一般角について理解し、一般角を表す動径を図示する。 弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をする。 周期性や漸近線など、三角関数のグラフの特徴を理解する。 加法定理を利用して、三角関数の値を求める。 合成の公式を理解する。 累乗根の定義や性質を理解し、指数法則を用いた計算をする。 対数の性質に基づいて、種々の対数の値の計算をする。 指数関数・対数関数のグラフの特徴を理解し、グラフをかく。 指数関数・対数関数を含む方程式・不等式を解く。 桁数や小数第何位に初めて0でない数字が現れるかを、常用対数を用いて求める。 | | | | | | | | |
| 3 学期 | 第6章 微分法と積分法 微分係数と導関数 関数の値の変化 積分法 | <ul style="list-style-type: none"> 平均変化率の定義を理解する。 微分係数の図形的な意味を理解し、接線の傾きを求める。 導関数を利用して、関数の極値を求め、グラフをかく。 関数の最大値・最小値を求める。 定積分の定義を理解し、定積分を計算する。 2曲線の間の面積を、定積分で表して求める。 | | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | 各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | 目的に応じて適切に式を変形することができる。 事象を的確に捉えて、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | 問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。 問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊦ 小テスト | ㊦ 定期考査 ㊦ 発表 ㊦ 討論への参加状況 | ㊦ 各種提出状況 ㊦ 定期考査 ㊦ 討論への参加状況 | | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・理 | 単位 | 3 | 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ⅱ |
|-----------------|---|---|----------------------------------|----|------------|-----|-----|-----|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「NEXT 数学Ⅱ」数研出版 「CONNECT 数学Ⅱ 新課程」数研出版 「チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] 新課程」数研出版 | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 数学Ⅰの内容をさらに発展・拡充させるとともに、数学Ⅲへの学習の系統性に配慮しながら、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、より高度な能力を身につける。</p> <p>(2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。</p> | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | |
| 1学期 | 第3章 図形と方程式 点と直線 円 軌跡と領域 第4章 三角関数 三角関数 加法定理 | <ul style="list-style-type: none"> 座標平面上の2点間の距離、内分点、外分点の座標を求める。 2直線の平行・垂直条件を理解する。 点と直線の公式を理解する。 円外の点から引いた接線の方程式を求める。 2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べる。 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求める。 直線、円を境界線とする領域を図示する。 領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解する。 一般角について理解し、一般角を表す動径を図示する。 弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をする。 周期性や漸近線など、三角関数のグラフの特徴を理解する。 加法定理を利用して、三角関数の値を求める。 合成の公式を理解する。 | | | | | | | |
| 2学期 | 第5章 指数関数と対数関数 指数関数 対数関数 第6章 微分法と積分法 微分係数と導関数 関数の値の変化 積分法 | <ul style="list-style-type: none"> 累乗根の定義や性質を理解し、指数法則を用いた計算をする。 対数の性質に基づいて、種々の対数の値の計算をする。 指数関数・対数関数のグラフの特徴を理解し、グラフをかく。 指数関数・対数関数を含む方程式・不等式を解く。 桁数や小数第何位に初めて0でない数字が現れるかを、常用対数を用いて求める。 平均変化率の定義を理解する。 微分係数の図形的な意味を理解し、接線の傾きを求める。 導関数を利用して、関数の極値を求め、グラフをかく。 関数の最大値・最小値を求める。 定積分の定義を理解し、定積分を計算する。 2曲線の間の面積を、定積分で表して求める。 | | | | | | | |
| 3学期 | 評 価 | | | | | | | | |
| 評価の観点 | 到達度目標 [「B」(おおむね満足できる)の規準] | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① 知識・技能 | 各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | △ |
| ② 思考・判断・表現 | 目的に応じて適切に式を変形することができる。 事象を的確に捉えて、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | △ |
| ③ 主体的に学習に取り組む態度 | 問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。 問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 | | | | | ○ | | ○ | △ |
| 評価方法 | ① | | ② | | ③ | | | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト | ㊦ 定期考査 ㊧ 発表 ㊨ 討論への参加状況 | ㊦ 各種提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況 | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・理 | 単位 | 1 | 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ⅲ |
|-------|---|---|------------------------------------|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「NEXT 数学Ⅲ」数研出版 「CONNECT 数学Ⅲ 新課程」数研出版 「チャート式 解法と演習 数学Ⅲ 新課程」数研出版 | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 極限についての概念や原理・法則性を体系的に理解し、知識の習得と技能の習熟を図る。 (2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。 (3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。 | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | / | | | | | | | | |
| 2 学期 | / | | | | | | | | |
| 3 学期 | 第1章 関数 第2章 極限 数列の極限 関数の極限 | <ul style="list-style-type: none"> 分関関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 合成関数や逆関数の意味を理解する。 数列の極限を求める。 無限級数の和を求める。 式を多面的に捉えたり目的に応じて変形したりし、極限を求める方法を考察する。 関数の値の極限について理解する。 | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標 [「B」(おおむね満足できる) の規準] | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | 各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。 | / | / | / | / | / | ○ | |
| ② | 思考・判断・表現 | ・目的に応じて適切に式を変形することができる。 ・事象を的確に捉えて、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 | / | / | / | / | / | ○ | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。 ・問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 | / | / | / | / | / | ○ | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト | ㊦ 定期考査 ㊧ 発表 | ㊦ 各種課題提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況 | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・英文 | 単位 | 2 | 教科 | 数学 | 科目 | 数学B |
|---------|---|--|-------|----|----------------------------------|-----|-----|-----|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「NEXT 数学B」数研出版 「CONNECT 数学B 新課程」数研出版 「チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] 新課程」数研出版 | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、より高度な能力を身につける。</p> <p>(2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。</p> | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 第1章 数列 等差数列と等比数列 いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法 | <ul style="list-style-type: none"> 数列の定義、表記について理解し、数の並びの規則性を発見する。 等差数列の定義と公差について理解し、一般項を求める。 等差数列の和の公式を理解し、公式を用いて等差数列の和を求める。 等比数列の定義と公比について理解し、一般項を求める。 等比数列の和の公式を理解し、公式を用いて等比数列の和を求める。 和の記号Σの意味を理解し、数列の和を、Σを用いた方法で表現する。 階差数列から数列の一般項が求められる仕組みを理解し、一般項を求める。 等差数列と等比数列の積で表される数列の和や、群数列について理解する。 漸化式の意味を理解し、漸化式から一般項を求める。 数学的帰納法を用いて、等式や不等式の証明をする。 | | | | | | | |
| 2 学期 | 第2章 統計的な推測 確率分布 統計的な推測 | <ul style="list-style-type: none"> 確率変数や、確率分布について理解する。 確率変数の期待値、分散、標準偏差を求める。 2つの確率変数の和や積で定められる確率変数について理解する。 二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差を求める。 正規分布に従う確率変数について、確率を求める。 全数調査と標本調査について理解する。 標本平均は1つの確率変数であることを理解する。 標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求める。 母平均、母比率に対する信頼区間を求める。 仮説検定の意味を理解し、仮説検定による判断をする。 | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | 各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ② | 思考・判断・表現 | 目的に応じて適切に式を変形することができる。 数列や統計的な推測について理解し、事象を数学的に表現し考察することができる。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | 問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。 問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 | | | | ○ | | ○ | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト | ㊦ 定期考査 ㊧ 発表 ㊨ 討論への参加状況 | | | ㊦ 各種提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・理 | 単位 | 1 | 教科 | 数学 | 科目 | 数学B | |
|-------------|---|--|------------------------------|----|---|----------------------------------|-----|-----|-----|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「NEXT 数学B」数研出版 ・「CONNECT 数学B 新課程」数研出版 ・「チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] 新課程」数研出版 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、より高度な能力を身につける。</p> <p>(2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。</p> | | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学 期 | 第1章 数列 等差数列と等比数列 | <ul style="list-style-type: none"> ・数列の定義、表記について理解し、数の並びの規則性を発見する。 ・等差数列の定義と公差について理解し、一般項を求める。 ・等差数列の和の公式を理解し、公式を用いて等差数列の和を求める。 ・等比数列の定義と公比について理解し、一般項を求める。 ・等比数列の和の公式を理解し、公式を用いて等比数列の和を求める。 ・和の記号Σの意味を理解し、数列の和を、Σを用いた方法で表現する。 ・階差数列から数列の一般項が求められる仕組みを理解し、一般項を求める。 ・等差数列と等比数列の積で表される数列の和や、群数列について理解する。 ・漸化式の意味を理解し、漸化式から一般項を求める。 ・数学的帰納法を用いて、等式や不等式の証明をする。 | | | | | | | | |
| | いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法 | | | | | | | | | |
| 2 学 期 | 第2章 統計的な推測 確率分布 | <ul style="list-style-type: none"> ・確率変数や、確率分布について理解する。 ・確率変数の期待値、分散、標準偏差を求める。 ・2つの確率変数の和や積で定められる確率変数について理解する。 ・二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差を求める。 ・正規分布に従う確率変数について、確率を求める。 ・全数調査と標本調査について理解する。 ・標本平均は1つの確率変数であることを理解する。 ・標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求める。 ・母平均、母比率に対する信頼区間を求める。 ・仮説検定の意味を理解し、仮説検定による判断をする。 | | | | | | | | |
| | 統計的な推測 | | | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標「B」(おおむね満足できる)の規準 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | ・各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。 | | | | ○ | ○ | ○ | △ | △ |
| ② | 思考・判断・表現 | ・目的に応じて適切に式を変形することができる。 ・数列や統計的な推測について理解し、事象を数学的に表現し考察することができる。 | | | | ○ | ○ | ○ | △ | △ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。 ・問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 | | | | | ○ | ○ | △ | △ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ⑦ 定期考査 ⑧ 小テスト | | ⑦ 定期考査 ⑧ 発表 ⑨ 討論への参加状況 | | | ⑦ 各種提出状況 ⑧ 定期考査 ⑨ 討論への参加状況 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通科 | 単位 | 1 | 教科 | 数学 | 科目 | 数学C | |
|---------|---|--|------------------------------|-----|-----|----------------------------------|-----|----|-----|--|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「NEXT、数学C」数研出版 「CONNECT 数学C 新課程」数研出版 「チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] 新課程」数研出版 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、より高度な能力を身につける。 (2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。 (3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。 | | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | | |
| 2 学期 | 第1章 平面上のベクトル ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形 | <ul style="list-style-type: none"> ベクトルの表し方を学び、その演算について理解する。 ベクトルの成分表示について理解する。 ベクトルの内積を求める。 内積の性質を用いて証明や計算をする。 線分の内分点、外分点の位置ベクトルを求める。 三角形の重心の位置ベクトルを求める。 位置ベクトルを用いて、平面図形の性質を調べる。 直線のベクトル方程式を理解する。 平面上の点の存在範囲を求める。 円のベクトル方程式を理解する。 | | | | | | | | |
| 3 学期 | 第2章 空間のベクトル | <ul style="list-style-type: none"> 空間の点の座標について理解し、空間の点と原点との距離を計算する。 空間ベクトルの演算を理解する。 成分表示された空間ベクトルの大きさを求める。 ベクトルを用いて、座標空間の点を考える。 ベクトルの内積を用いて、空間における角の大きさを求める。 空間の点を位置ベクトルで表す。 直線と平面の交点の位置ベクトルを求める。 座標空間の2点間の距離や、内分点・外分点の座標を求める。 座標軸に垂直な平面の方程式や、球面の方程式を求める。 | | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標 [「B」(おおむね満足できる)の規準] | 評価のフィードバック | | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | | |
| ① | 知識・技能 | 各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。 | △ | △ | △ | ○ | ○ | | | |
| ② | 思考・判断・表現 | 目的に応じて適切に式を変形することができる。 ベクトルについて理解し、事象を数学的に表現し考察することができる。 | △ | △ | △ | ○ | ○ | | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | 問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。 問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 | △ | △ | △ | ○ | ○ | | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト | | ㊦ 定期考査 ㊧ 発表 ㊨ 討論への参加状況 | | | ㊦ 各種提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・理 | 単位 | 1 | 教科 | 数学 | 科目 | 数学探究β |
|-----------------|---|------------------------------|----------------------------------|--|-----|-----|----|----|-------|
| 学習教材 | ・(購入する教材) | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 数学ⅠAⅡBCの内容をさらに発展・拡充させるとともに、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、より高度な能力を身につける。 (2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。 (3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。 | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | |
| 1学期 | / | | | | | | | | |
| 2学期 | / | | | | | | | | |
| 3学期 | ・数学ⅠAⅡBCの問題演習 | | | ・ 予習 ：問題を解く(重要)。忘れていた公式や解法を調べる。 ・ 授業 ：解いた問題を他者に論理的に説明する。問題の読みとり方や基本的な考え方・解き方を学ぶ。また類題や発展的な問題を扱うことにより、より体系的に分野の理解を深める。 ・ 復習 ：授業で疑問に残った点を解決する。スタディーサプリの動画やチャートを活用する。先生に質問する。 | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | | |
| | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | | |
| ① 知識・技能 | ・各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。 | / | / | / | / | ○ | | | |
| ② 思考・判断・表現 | ・目的に応じて適切に式を変形することができる。 ・事象を的確に捉えて、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 | / | / | / | / | ○ | | | |
| ③ 主体的に学習に取り組む態度 | ・問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。 ・問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 | / | / | / | / | ○ | | | |
| 評価方法 | ① | ② | ③ | | | | | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト | ㊦ 定期考査 ㊧ 発表 ㊨ 討論への参加状況 | ㊦ 各種提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況 | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・理 | 単位 | 2 | 教科 | 理科 | 科目 | 物理基礎 |
|-------------|---|---|------------------------------------|-----|-----|--|-----|----|------|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書 「改訂版 物理基礎」(数研出版) 問題集 「リードLightノート物理基礎」(数研出版) 問題集 「フォローアップドリル物理基礎① 運動の表し方・力・運動方程式」(数研出版) 「フォローアップドリル物理基礎② 仕事とエネルギー・熱」(数研出版) 「フォローアップドリル物理基礎③ 波・電気」(数研出版) | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 物理現象にかかわる基本的な原理・原則について、定性的・定量的に理解できる。 (2) 観察、実験を通して予測・分析・考察といった科学的な能力を身につける。また、活動の中で自らの思考を伝えるための表現力を養う。 (3) 日常生活や自然の中に物理的な事物・現象を見だし、自ら探究する態度を身につける。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学 期 | はじめに 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 | <ul style="list-style-type: none"> 物理量の扱い方について スカラー量とベクトル量の違い 直線運動における物体の変位、速度、加速度の定義 等速、等加速度で直線運動をする物体の変位や速度の表し方 自由落下運動・鉛直投射運動について いろいろな力と、各力の大きさを表す式 ベクトル合成・分解による平面上での力のつりあいの考え方 運動方程式の立て方と解法 運動の3法則について 仕事とエネルギーの定義とその関係性 運動エネルギーと位置エネルギーの表し方 力学的エネルギー保存則を用いた物体の状態の考え方 | | | | | | | |
| | 第2章 運動の法則 第3章 仕事と力学的エネルギー | | | | | | | | |
| 2 学 期 | 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー | <ul style="list-style-type: none"> 熱および熱量の定義、比熱・熱容量を用いた熱量の表し方 熱と物質の状態の関係、熱とエネルギーの関係について | | | | | | | |
| | 第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音 | <ul style="list-style-type: none"> 波の基本的な性質と波を表す要素 音波の性質 気柱や弦などの発音体における振動のようす | | | | | | | |
| | 第4編 電気 第1章 物質と電気 第2章 磁場と交流 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 | <ul style="list-style-type: none"> 電気の性質 オームの法則を用いた電流と電圧、抵抗の関係 電気とエネルギーの関係性 磁場 電磁波の性質や種類について エネルギーの種類とその利用について | | | | | | | |
| 3 学 期 | 評 価 | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標「B」(おおむね満足できる)の規準 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象を定性的・定量的に理解している。 観察や実験に関する基本的な技術を身につけている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 観察や実験を通して自然の中に規則性・法則性を見つけてることができる。 自然の事物・現象を感覚として捉えるだけでなく、その特徴を式やグラフなどを用いて表現したり、読み取ったりすることができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中に物理的な事物・現象を見いだそうとするなど、主体的に自然と関わろうとしている。 学習の過程を振り返り、自ら調整しようとしている。 | | ○ | | ○ | △ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | ㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨提出物 | | ㊦定期考査 ㊧授業プリント ㊨実験レポート(予想・考察) | | | ㊦ポートフォリオ ㊧実験レポート(自己評価) ㊨各種課題提出状況 | | | |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | |
|----------------------|--|---|--|-----|--|-----|-----|----|----|
| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・理 | 単位 | 1 | 教科 | 理科 | 科目 | 物理 |
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「物理」(数研出版) ・問題集「リードLightノート物理」(数研出版) | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 物理現象にかかわる基本的な原理・原則について、定性的・定量的に理解できる。 (2) 観察、実験を通して予測・分析・考察といった科学的な能力を身につける。また、活動の中で自らの思考を伝えるための表現力を養う。 (3) 日常生活や自然の中に物理的な事物・現象を見いだし、自ら探究する態度を身につける。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1学期 | / | | | | | | | | |
| 2学期 | / | | | | | | | | |
| 3学期 | 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 第2章 剛体 第3章 運動量の保存 第4章 円運動と万有引力 | <ul style="list-style-type: none"> ・2次元平面上における速度と加速度の定義 ・2次元平面上における落体の運動の解法 ・剛体にはたらく力のつりあいと力のモーメントのつりあい ・剛体にはたらく合力と重心の求め方 ・運動量と力積の定義 ・運動量保存則を用いた2物体衝突の考え方 ・反発係数の定義 ・運動量保存則と反発係数の式を用いた2物体運動の解法 ・等速円運動を表す要素について ・慣性力を用いた現象の理解と式の立て方 ・単振動を表す要素について ・振り子の運動 ・惑星の運動とケプラーの法則について ・万有引力の法則について | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象を定性的・定量的に理解している。 ・観察や実験に関する基本的な技術を身につけている。 | / | / | / | / | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を通して自然の中に規則性・法則性を見つけることができる。 ・自然の事物・現象を感覚として捉えるだけでなく、その特徴を式やグラフなどを用いて表現したり、読み取ったりすることができる。 | / | / | / | / | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中に物理的な事物・現象を見いだそうとするなど、主体的に自然と関わろうとしている。 ・学習の過程を振り返り、自ら調整しようとしている。 | / | / | / | / | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | ③ | | | | |
| | ㊦定期考査 ㊦小テスト ㊦提出物 | | ㊦定期考査 ㊦授業プリント ㊦実験レポート (予想・考察) | | ㊦ポートフォリオ ㊦実験レポート (自己評価) ㊦各種課題提出状況 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| | | | | | | | | | |
|------|---|-----|------|----|---|----|----|----|----|
| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・理 | 単位 | 2 | 教科 | 理科 | 科目 | 化学 |
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「化学」実教出版 ・資料集「二訂版 ニュースページ化学図表」浜島書店 ・問題集「新インプレス化学ノート」浜島書店 | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 化学的な事物・現象の観察、実験などを通して、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するうえで必要な技能として利用できる。</p> <p>(2) 化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して検証や分析、解釈といった探究の方法を習得し、発表したり表現したりすることができる。</p> <p>(3) 化学的な事物・現象に対して主体的に関わる中で、設定した課題を解決しようとし、科学的に探究することができる。</p> | | | | | | | | |

単元と学習内容

| | | |
|---|------------------|--|
| 1 学期 | 1章 物質の状態と平衡 | <ul style="list-style-type: none"> ・物質の三態と融点・沸点を、粒子間に働く力と関連して考える。 ・状態の平衡と粒子の熱運動について理解する。 ・結晶の構造の特徴について理解する。 ・結晶とアモルファスを比較し、配列の規則性と性質の関係を理解する。 ・気体の温度、体積、圧力の関係性を論理的に理解し、基本的な計算ができる。 ・気体の状態方程式について、関係性を理解し、基本的な計算ができる。 |
| | 1節 状態変化 | |
| 2節 固体の構造 | | |
| 2 学期 | 3節 気体の性質 | <ul style="list-style-type: none"> ・溶解の原理について、液性と関連付けて理論的に理解する。 ・固体及び気体の溶解度を理解し、基本的な計算方法を習得する。 ・沸点上昇・凝固点降下・浸透圧について理解し、計算方法を習得する。 ・実験からコロイド溶液の性質について理解する。 |
| | 4節 溶液 | |
| | 2章 物質の変化と平衡 | |
| | 1節 化学反応と熱・光エネルギー | |
| 3 学期 | 2節 電池と電気分解 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学反応と熱エネルギーの関係を理解し、エントロピー変化を用いて熱の出入りを表現する。ヘスの法則を用いた基本的な計算方法を習得する。 ・化学変化と光エネルギーの関係を理解し、論理的に考察する。 ・電池の仕組みを理解し、電池の種類と特徴を理解する。 ・化学反応と電気エネルギーの関係を理解し、利用例を学ぶ。 ・電池と電気分解における電気量と物質量の関係を理解し、基本的な計算方法を習得する。 |
| | 3節 反応の速さとしくみ | |
| | 4節 化学平衡 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・化学反応の速度についての基本的な考え方を学び、反応速度を変える条件について論理的に理解する。 ・反応のしくみについて理解し、反応が進行する条件を理解する。 ・化学平衡の原理と法則を理論的に理解し、化学平衡の法則について基本的な計算方法を習得する。 ・化学平衡の移動の原理を学び、その条件を理論的に理解する。 ・酸・塩基と関連して電離平衡を考え、その原理を理解する。 | | |

評価

| 評価の観点 | 到達度目標「B」(おおむね満足できる)の規準 | 評価のフィードバック | | | | |
|-----------------|--|---|-----|---|-----|-----|
| | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化について理解するとともに、化学的な解釈や説明ができる。 ・化学的な事物・現象に関する基礎的な知識及び概念や原理・法則を系統的に理解し、活用することができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって化学的な事物・現象の観察、実験を行い、仮説の設定や結果の分析などの探究的な活動ができる。 ・化学的な事象・現象に関する課題に対して、習得した知識を基に考察し、自分の考えを表現できる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学的な事物・現象に対して主体的に関わり、その中から課題を設定し、科学的に探究できる。 | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | ② | | ③ | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ⑦定期考査 ⑧小テスト ⑨提出物 | <ul style="list-style-type: none"> ⑦定期考査 ⑧授業プリント ⑨実験レポート | | <ul style="list-style-type: none"> ⑦授業プリント ⑧実験レポート ⑨各種課題提出状況 | | |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | |
|----------------------|--|---|--------------------------------|-----|-----|-----|----|----|------|
| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・英文 | 単位 | 2 | 教科 | 理科 | 科目 | 生物基礎 |
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「i版 生物基礎 改訂版」啓林館 資料集「ニューステージ 生物図表」浜島書店 問題集「リードα 生物基礎 三訂版」数研出版 | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 生命現象を理解するために、分子レベルの視点をもって生命現象を学習することができる。 (2) 観察や実験を通して、生命現象を科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に付けるとともに、仮説を立てて検証をすることができる。 (3) 生物に主体的に関わり、日常生活や社会と生態系の関連を図りながら学習できる。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1学期 | 生物の特徴 遺伝子とその働き | <ul style="list-style-type: none"> 生物の分類を通して、多様な姿をもつ生物の共通性を見出す。 光合成と呼吸を通して、代謝とATPの関係を理解し、生命活動を支える酵素の働きについて理解する。 DNAの構造と特徴の理解を通して、塩基の相補性と複製を関連付けて理解する。 細胞分裂の観察を通して、DNAの分配について理解する。 遺伝情報の発現の仕組みを通して、生命活動の中心となるタンパク質とDNAの塩基配列の関係性について理解する。 タンパク質とDNAの塩基配列の関係性をもとに、DNAと遺伝子とゲノムの違いを理解する。 | | | | | | | |
| 2学期 | 神経系と内分泌系による調節 免疫 | <ul style="list-style-type: none"> 体内と体外の違いの理解を通して、体内を満たす体液と生命活動の関係を理解する。 循環系の学習を通して、血球の働きと心臓の構造を理解する。 自律神経系と内分泌系の学習を通して、恒常性について理解する。 ホルモンの学習を通して、細胞表面受容体とシグナル伝達について理解する。 肝臓と腎臓の学習を通して、体液調節のしくみについて理解する。 白血球の働きの学習を通して、防御機構のしくみを理解する。 獲得免疫の学習を通して、免疫グロブリンの働きとその特徴、受容体を介したシグナル伝達について理解する。 | | | | | | | |
| 3学期 | 植生と遷移 生態系とその保全 | <ul style="list-style-type: none"> 生態系の構造と植生が与える影響について理解し、植生の遷移が生じる理由を理解する。 各バイオームの特徴を学習し、気温と降水量の変化により、バイオームが変わることを理解する。 生態系におけるエネルギーの移り変わりと物質の循環のしくみについて理解する。 人間活動に伴う生態系の変化について学習し、生態系の保全活動の手法について、具体的に考察する。 | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | | |
| | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | | |
| ① 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 単語を写真や図と関連させて理解している。 実験テキストに基づいて正しい実験操作ができています。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| ② 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 生命現象について、学習した単語を用いて説明することができる。 実験結果について、学習した内容をもとに理由を説明できる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| ③ 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 授業を通して自分が理解したことを説明することができる。 グループワーク時、積極的に議論に参加し、課題解決に主体的に取り組むことができる。 | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 評価方法 | ① | ② | ③ | | | | | | |
| | ㊦定期考査 ㊧副教材の取り組み ㊨単語テスト | ㊦定期考査 ㊧課題 ㊨ループリック | ㊦各種提出物 ㊧活動への参加状況 ㊨ループリック | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・理 | 単位 | 2 | 教科 | 理科 | 科目 | 生物基礎 | |
|---------|---|--|---|----|---|--|-----|-----|------|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「i版 生物基礎 改訂版」啓林館 ・資料集「ニューステージ 生物図表」浜島書店 ・問題集「リードα 生物基礎 三訂版」数研出版 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 生命現象を理解するために、分子レベルの視点をもって生命現象を学習することができる。</p> <p>(2) 観察や実験を通して、生命現象を科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に付けるとともに、仮説を立てて検証をすることができる。</p> <p>(3) 生物に主体的に関わり、日常生活や社会と生態系の関連を図りながら学習できる。</p> | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 生物の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物の分類を通して、多様な姿をもつ生物の共通性を見出す。 ・光合成と呼吸を通して、代謝とATPの関係を理解し、生命活動を支える酵素の働きについて理解する。 | | | | | | | | |
| | 遺伝子とその働き | <ul style="list-style-type: none"> ・DNAの構造と特徴の理解を通して、塩基の相補性と複製を関連付けて理解する。 ・細胞分裂の観察を通して、DNAの分配について理解する。 ・遺伝情報の発現の仕組みを通して、生命活動の中心となるタンパク質とDNAの塩基配列の関係性について理解する。 ・タンパク質とDNAの塩基配列の関係性をもとに、DNAと遺伝子とゲノムの違いを理解する。 | | | | | | | | |
| | 神経系と内分泌系による調節 | <ul style="list-style-type: none"> ・体内と体外の違いの理解を通して、体内を満たす体液と生命活動の関係を理解する。 ・循環系の学習を通して、血球の働きと心臓の構造を理解する。 ・自律神経系と内分泌系の学習を通して、恒常性について理解する。 ・ホルモンの学習を通して、細胞表面受容体とシグナル伝達について理解する。 ・肝臓と腎臓の学習を通して、体液調節のしくみについて理解する。 | | | | | | | | |
| 2 学期 | 免疫 | <ul style="list-style-type: none"> ・白血球の働きの学習を通して、防御機構のしくみを理解する。 ・獲得免疫の学習を通して、免疫グロブリンの働きとその特徴、受容体を介したシグナル伝達について理解する。 | | | | | | | | |
| | 植生と遷移 | <ul style="list-style-type: none"> ・生態系の構造と植生が与える影響について理解し、植生の遷移が生じる理由を理解する。 ・各バイオームの特徴を学習し、気温と降水量の変化により、バイオームが変わることを理解する。 | | | | | | | | |
| | 生態系とその保全 | <ul style="list-style-type: none"> ・生態系におけるエネルギーの移り変わりと物質の循環のしくみについて理解する。 ・人間活動に伴う生態系の変化について学習し、生態系の保全活動の手法について、具体的に考察する。 | | | | | | | | |
| 3 学期 | 評 価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・単語を写真や図と関連させて理解している。 ・実験テキストに基づいて正しい実験操作ができています。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | △ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・生命現象について、学習した単語を用いて説明することができる。 ・実験結果について、学習した内容をもとに理由を説明できる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | △ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して自分が理解したことを説明することができる。 ・グループワーク時、積極的に議論に参加し、課題解決に主体的に取り組むことができる。 | | | | | ○ | | ○ | △ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ⑦定期考査 ①副教材の取り組み ⑦単語テスト | | <ul style="list-style-type: none"> ⑦定期考査 ①課題 ⑦ループリック | | | <ul style="list-style-type: none"> ⑦各種提出物 ①活動への参加状況 ⑦ループリック | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・理 | 単位 | 1 | 教科 | 理科 | 科目 | 生物 |
|-------------|---|---|---|-----|-----|--|-----|----|----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「生物」数研出版 ・資料集「ニューステージ 生物図表」浜島書店 | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 生命現象を理解するために、分子レベルの視点をもって生命現象を学習することができる。</p> <p>(2) 観察や実験を通して、生命現象を科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に付けるとともに、仮説を立てて検証をすることができる。</p> <p>(3) 生物に主体的に関わり、日常生活や社会と生態系の関連を図りながら学習できる。</p> | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学 期 | / | | | | | | | | |
| 2 学 期 | / | | | | | | | | |
| 3 学 期 | 生命の起源と生物の進化 | <ul style="list-style-type: none"> ・無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。 ・生物が代謝を通じて地球環境を変化させてきたこと、地球の環境変化を受けて生物が進化してきたことを理解する。 | | | | | | | |
| | 遺伝子の変化と多様性 遺伝子の組み合わせの変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・形質の変化は遺伝子の変化によって生じることを理解する。 ・突然変異によって遺伝的多様性が生じることを理解する。 ・減数分裂の過程で染色体の乗り換えによって遺伝子の組み換えが起こることを理解する。 ・減数分裂と受精の過程を通して、遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。 | | | | | | | |
| | 進化のしくみ 生物の系統と進化 人類の系統と進化 | <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。 ・隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。 ・DNA やタンパク質の配列変化から生物の系統を推定できることを理解する。 ・生物は系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。 ・人類が霊長類から進化し、人類の特徴として直立二足歩行が重要であることを理解する。 | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・単語を写真や図と関連させて理解している。 ・実験テキストに基づいて正しい実験操作ができている。 | / | / | / | / | / | ○ | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・生命現象について、学習した単語を用いて説明することができる。 ・実験結果について、学習した内容をもとに理由を説明できる。 | / | / | / | / | / | ○ | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して自分が理解したことを説明することができる。 ・グループワーク時、積極的に議論に参加し、課題解決に主体的に取り組むことができる。 | / | / | / | / | / | ○ | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ⑦定期考査 ①副教材の取り組み ⑦単語テスト | | <ul style="list-style-type: none"> ⑦定期考査 ①課題 ⑦ループリック | | | <ul style="list-style-type: none"> ⑦各種提出物 ①活動への参加状況 ⑦ループリック | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・英文 | 単位 | 2 | 教科 | 理科 | 科目 | 地学基礎 | |
|---------|--|--|--|--|---|---------------------------------|-----|-----|------|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「高等学校 改訂 地学基礎」第一学習社 ・「新課程 二訂版 スクエア最新図説 地学」第一学習社 ・「改訂 ネオパルノート 地学基礎」第一学習社 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 実験や観察などから地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するための見方や考え方を適切に使用することができる。</p> <p>(2) 見通しをもって観察や実験を行い、科学的に思考し、それを的確に表現できる。</p> <p>(3) 身の回りの地学的な事物・現象に関心を持ち、主体的に関わる中で課題を見つけ、科学的に探究することができる。</p> | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 第1章 地球の姿 | 第1節 地球の概観 | <ul style="list-style-type: none"> ・測定結果などの資料から地球の形、大きさ、内部構造の特徴について理解できる。 ・地層や岩石の変化、特徴的な地形がプレートの動きと関連していることを理解できる。 | | | | | | | |
| | 第2節 プレートの運動 | 第2章 地球の活動 | 第1節 地震 | <ul style="list-style-type: none"> ・地震の発生と分布をプレートの動きと関連付けて考えることができる。また地震波の特徴と震源の決定方法を習得する。 ・火山の分布、火山形成、噴火の仕組みを理解できる。またマグマの性質による火山の形、火成岩の特徴を習得する。 | | | | | | |
| 2 学期 | 第3章 大気と海洋 | 第1節 地球のエネルギー収支 | <ul style="list-style-type: none"> ・大気構成と特徴、大気中の水の状態変化及び地球のエネルギー収支について理解できる。 ・緯度毎のエネルギー収支の特徴から、大気の大循環を理解できる。また海洋の構造の特徴から、海洋の大循環を理解できる。 | | | | | | | |
| | 第2節 大気と海水の運動 | 第4章 宇宙と地球 | 第1節 宇宙と太陽の誕生 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇宙や銀河の誕生過程や、太陽等の恒星の構造と活動について理解する。 ・太陽系の誕生過程を学び、惑星の誕生過程や特徴について理解する。また地球で生命が誕生する条件について理解する。 | | | | | | |
| | 第2節 太陽系と地球の誕生 | 第5章 生物の変遷と地球環境 | 第1節 地層と化石 | <ul style="list-style-type: none"> ・河川の働きと地層の形成を学び、地層の重なりやかぎ層による地層の対比を理解する。また化石と地質時代の区分について習得する。 | | | | | | |
| 3 学期 | 第2節 地球の生物の変遷 | 第6章 地球の環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の変化と生物界の変遷を理解し、知識を習得する。 | | | | | | | |
| | 第1節 地球環境の科学 | 第2節 日本の自然環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・地球の気候変動やオゾン層の変化について、環境への影響や人間生活とのかかわりを理解できる。 ・日本における自然の恩恵を理解し、日本の天気、地震、火山による災害とその対策について理解できる。 | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験の結果を通して地学の基本的な概念や原理・法則を理解している。 ・習得した知識をもとに、地学的な見方や考え方を適切に用いて探究する方法を身につけている。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・地学的な事物・現象について観察や実験を行い、結果を分析するなど科学的に探究する活動ができる。 ・地学的な環境の変化について習得した知識を基に考察し、自分の考えを表現できる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの地学的な事物・現象に関心を持ち、意欲的に関わって行く中で、地学的な観点から考察したり、課題を見つけて解決したりすることができる。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ⑦定期考査 ⑧授業プリント ⑨提出物 | | ⑦定期考査 ⑧授業プリント ⑨実験レポート | | | ⑦授業プリント ⑧実験レポート ⑨各種課題提出状況 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通 | 単位 | 2 | 教科 | 保健体育 | 科目 | 体育 |
|---------|--|--|---|-----|-----|-----|------|----|----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書 現代高等保健体育 (大修館書店) 資料集 図説現代高等保健 (大修館書店) | | <ul style="list-style-type: none"> 体育簿 (富山県体育保健学会) | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。また公正、協力、責任や健康・安全に留意する態度を身に付けることができる。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、それらの解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えるコミュニケーション能力の伸長を図ることができる。</p> <p>(3) 班毎の目標や個人の課題が達成されるように練習を組み立て実行する能力を養うことができる。</p> | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 体づくり運動 以下、同じ印から選択(☆●○ △□) ☆球技・ソフトボール ☆球技・ソフトテニス 体育理論 | 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方などを理解するとともに、自己の体力に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てる。 ソフトボールでは安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることを身に付け、ゲームを展開する。 ソフトテニスでは様々なサーブを打つ技能や変化のあるボールを返球する技能を身に付け、ゲームを展開する。 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解し、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断すると共に、他者に伝える能力や、学習に主体的に取り組む態度を身に付ける。 | | | | | | | |
| 2 学期 | 体づくり運動 ●陸上競技・ハードル走 ●陸上競技・リレー 陸上競技・中長距離走 ○器械運動・マット運動 ○ダンス・創作ダンス △球技・サッカー △ダンス・創作ダンス | 1学期と同じ 陸上競技では種目特有の技能を身に付ける。ハードル走ではスピードを維持してハードルを低くリズムカルに越す能力、リレーでは中間走の高いスピードを維持して速く走る能力を身に付ける。 中長距離走ではペースの変化に対応して走る能力を身に付ける。 回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うとともに条件を変えた技や発展技に挑戦し、それらを構成し演技する。 創作ダンスでは表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で対局の動きや空間の使い方に変化を付けて表現し、イメージを強調した作品にまとめて踊ることができる。 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をして、ゲームを展開する。 上記、創作ダンスと同じ。 | | | | | | | |
| 3 学期 | □球技・バドミントン □球技・卓球 体育理論 | (バドミントンと卓球共通) 個人の各種技術を高め、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わいながらゲームを行う。 体育理論は1学期と同じ。 | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の基準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などについて理解している。 基本的な技能を身に付けている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに考えたことを他者に伝えている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 各種運動に積極的に取り組もうとしている。 演技などの話し合いに参加しようとしている。 仲間の学習を援助しようとしている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | ⑦学習カード ①観察 ⑧記録・実技テスト | ⑦学習カード ①観察 | ⑦学習カード ①観察 | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・文理 | 単位 | 1 | 教科 | 芸術 | 科目 | 音楽実践 | |
|---------|---|---|--|----|---|-------------------------------------|-----|-----|------|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「MOUSA2」教育芸術社 「Music Note 基礎から学ぶ高校音楽」啓隆社、「高校生の歌集 つどい」啓隆社 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深め、創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能を身に付けることができる。 (2) 音楽を形づくっている要素とその働きについて考え、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって鑑賞することができる。 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しみ、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。 | | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 正しい発声法を身に付けよう | <ul style="list-style-type: none"> 姿勢や呼吸法、発声法などに気を付けて歌う 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解して表現する Alleluja/SUN/ハナミズキ/糸 日本語、イタリア語、ドイツ語で歌詞を音読する 歌と伴奏の役割をよく理解して、表現上の効果を生かして歌う 浜辺の歌/からたちの花 /フニクリ・フニクラ/春への憧れ | | | | | | | | |
| | 歌曲に親しもう | <ul style="list-style-type: none"> コードネームの仕組みを理解し、その働きを感じ取り、メロディにコードづけを行う メロディ・コード・ベースに分かれて、キーボードによるアンサンブルを行う | | | | | | | | |
| | アンサンブルに挑戦① ～キーボード～ | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの国や地域に伝わる音楽と身体表現による特徴や、文化的・歴史的背景について理解を深めて鑑賞する それぞれの国や地域の音楽の共通点や相違点を調べ、多様な民族音楽について意見をまとめる 鑑賞：「世界の諸民族の音楽」 | | | | | | | | |
| 2 学期 | 合唱に親しもう | <ul style="list-style-type: none"> 主体的、積極的に歌唱活動に参加し、各パートの役割や音の重なり方、他者との調和を意識して合唱をする 表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う 上を向いて歩こう/赤とんぼ/明日の木 | | | | | | | | |
| | アンサンブルに挑戦② ～トーンチャイム～ | <ul style="list-style-type: none"> 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、創造的にアンサンブル活動に取り組む トーンチャイムによるアンサンブルの特徴と表現上の効果を感じ取り、表現を工夫して演奏をする | | | | | | | | |
| | 歌舞伎に親しもう | <ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎の表現の特徴や文化的・歴史的背景について理解を深め、その良さや美しさを味わって鑑賞する 長唄の発声や歌唱法の特徴について理解し、表現を工夫して歌う 歌舞伎「京鹿子娘道成寺」/長唄「越後獅子」 | | | | | | | | |
| 3 学期 | アンサンブルに挑戦③ ～ヴァイオリン～ | <ul style="list-style-type: none"> ヴァイオリンの構造と奏法について理解を深め、弦楽器の美しい音色を味わう 楽曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を理解し、表現を工夫して演奏する カノン/きらきら星/喜びの歌 | | | | | | | | |
| | 創作に挑戦しよう | <ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色や旋律の重ね方などによる響きの違いを理解し、その特徴を生かして創作する 反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージを持って創造的に音楽をつくる | | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深め、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。 | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 個性豊かに音楽表現を創意工夫している。 音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって 聴いている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組もうとしている。 | | | | ○ | | ○ | | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ㊦実技試験 ㊧レポート ㊨学習の取り組み状況(観察,聴取) | | ㊦実技試験,発表 ㊧レポート ㊨学習の取り組み状況(観察,聴取) | | | ㊦実技試験 ㊧作品提出 ㊨学習の取り組み状況(観察,聴取) | | | | |
| | | | | | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| | | | | | | | | | | |
|----------|--|---|---|----|---|---|----|------------|------|-----|
| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・文理 | 単位 | 1 | 教科 | 芸術 | 科目 | 美術実践 | |
| 学習教材 | 自作プリントなど | | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。</p> <p>(2) 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、自己の価値意識を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していくことができる。</p> | | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 「気軽に抽象画」 「卵から見える色」 「幸せに生きるとは？」 | <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚や味覚などのイメージの表現 ・色鉛筆の使い方と感じたことの表現 ・アイディアスケッチ ・鉛筆デッサン ・墨彩画の鑑賞と技法 ・墨彩画の制作 | | | | | | | | |
| 2 学期 | 「高校生活の思い出」 | <ul style="list-style-type: none"> ・ゼンタングルの技法 ・モノトーンの配色と構図 ・作品制作 | | | | | | | | |
| 3 学期 | 「プロダクトデザイン」 「思いやりの器」 「アートの行方」 | <ul style="list-style-type: none"> ・プロダクト製品の鑑賞 ・粘土での器制作 ・さまざまなアート作品の鑑賞 | | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | | | 評価のフィードバック | | |
| | | | | | | | | 1期末 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識 技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光などの造形要素を基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。 | | | | | | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考 判断 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現では、感じ取ったことや考えたこと等から、主題を生成し、主題に応じて表現を考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。 ・作品や美術文化などの鑑賞では、造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。 ・デザインの鑑賞では、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。 | | | | | | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵画表現の創造活動や、作品や美術文化の鑑賞の創造的な諸活動に、主体的に、試行錯誤や工夫を繰り返して、時間の限り粘り強く取り組もうとしている。 | | | | | | ○ | ○ | ○ |
| 評価 方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ㊦観察 ㊦ワークシート ㊦試作品 ㊦作品 ㊦作品コメント用紙 ㊦振り返り用紙 | | <ul style="list-style-type: none"> ㊦観察 ㊦ワークシート ㊦試作品 ㊦作品 ㊦作品コメント用紙 ㊦振り返り用紙 | | | <ul style="list-style-type: none"> ㊦観察 ㊦ワークシート ㊦試作品 ㊦作品 ㊦作品コメント用紙 ㊦振り返り用紙 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・文理 | 単位 | 1 | 教科 | 芸術 | 科目 | 書道実践 | |
|---------|--|---|---|----|---|---|-----|-----|------|-----|
| 学習教材 | ・教科書「書Ⅱ」光村図書 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 書の表現の方式や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 刻字の制作 | <ul style="list-style-type: none"> ・刻字が書の表現のひとつであることを理解する。 ・刻字の手順と技法を理解する。 | | | | | | | | |
| 2 学期 | 篆・隸・草・楷の比較 ・篆書の学習「泰山刻石」の鑑賞と臨書 ・隸書の学習「乙瑛碑」、「曹全碑」の鑑賞と臨書 ・草書の学習「十七帖」成立と特徴、鑑賞と臨書 ・行書の学習「集王聖教序」の名跡の鑑賞と臨書 ・楷書の学習の特徴、鑑賞と臨書 ・仮名の種類と特徴 ・高野切第一種の鑑賞と臨書、短冊 ・三色紙の鑑賞、散らし書きの技法を習得 ・百人一首の創作 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書体を比較し、字形と用筆の違いを知る。 ・小篆「泰山刻石」の臨書を通して、篆書の基本的な用筆、運筆、結構を取得する。 ・隸書「乙瑛碑」、「曹全碑」の臨書を通して、隸書の基本的な用筆、運筆、結構を取得する。 ・草書「十七帖」の成立について理解する。 ・草書の用筆、運筆、結構の特徴、表現技法を理解する。 ・草書「十七帖」の鑑賞と臨書を通して、草書の基本的な用筆、運筆、結構を取得する。 ・「集王聖教序」を題材として、臨書による古典学習の方法を取得する。 ・特徴や多彩な書法を理解し、その表現方法を理解する。 ・楷書の古典を題材として、臨書による古典学習の方法を取得する。 ・古典から、多彩な表情を捉え、それぞれの特徴と書法を理解し、その表現方法を理解する。 ・様々な古筆の書風を鑑賞し、仮名の書の表現の多様性を理解する。 ・「高野切第一種」の鑑賞と臨書を通して、仮名の基本的な用筆、運筆、結構を取得する。 ・短冊の書式について理解する。 ・三色紙を鑑賞して、散らし書きの技法を取得する。 ・百人一首の創作作品の作成、鑑賞 | | | | | | | | |
| 3 学期 | ・漢字仮名交じりの書の学習 ・さまざまな表現 ・創作 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉と表現のかかわり方、表現の意図や工夫の方法を味わう。 ・線質や構成の違いによる個性的な表現を味わう。 ・明確な表現意図をもち、主体的・意欲的に創作活動を行う。 ・創作、発表、鑑賞 | | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | ・書の表現方法や形式、多様性を書の創造的活動を通して幅広く理解し、書の伝統に基づいて効果的な技術を身に付けている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | ・書の良さや美しさを味わうとともに、意図に基づいた構想や表現の効果を理解し、書の伝統と文化の意味を考えて書の活動に生かしている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・書の伝統と文化に親しみ、主体的に書の幅広い活動に取り組もうとしている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ㊦提出作品 ㊦確認プリント(小テスト) ㊦臨書プリント ㊦振り返りプリント | | ㊦創作・鑑賞プリント ㊦提出(創作)作品 ㊦振り返りプリント ㊦観察 | | | ㊦振り返りプリント ㊦関心・意欲・授業態度 ㊦添削数・配布手本の記入 ㊦観察 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| | | | | | | | | | |
|---------|--|---|-----|------------------------------------|------------|-----|--------------------------------------|-----|--------------|
| 学年 | 2 | 科・系 | 普通科 | 単位 | 4 | 教科 | 外国語 | 科目 | 英語コミュニケーションⅡ |
| 学習教材 | ・教科書「BIG DIPPER English Communication II」数研出版 | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 文章や会話などを聞いたり読んだりして、情報や考えなどの要点を捉えることができる。 (2) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを論理性に注意して、話し合ったり伝えたりすることができる。 (3) 語句や文の構造などに注意しながら、100語程度の英文を書くことができる。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | Lesson 1 Why Don't You Come to School in Pajamas? | ・ アメリカの学校行事やそれを行う理由について理解し、その是非を話し合ったり、自分の考えを述べたりする。 | | | | | | | |
| | Lesson 2 Is Seeing Believing? | ・ 日本も含めて世界にあるだまし絵やその活用の仕方について理解し話し合ったり、面白い点について考えてみたりする。 | | | | | | | |
| | Lesson 3 Do You Get Enough Sleep? | ・ 睡眠の重要性や良い睡眠をとる方法について理解し、自分の今の睡眠や今後の在り方について考える。 | | | | | | | |
| | Lesson 4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker? | ・ 英語の多様性や ELF について理解し、自らの英語学習の目標について考える。 | | | | | | | |
| 2 学期 | Lesson 5 Universal Design: Convenient for All | ・ ユニバーサルデザインとその有用性について理解し、同時にそれが抱える課題や今後の方向性について考える。 | | | | | | | |
| | Lesson 6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer | ・ 高齢者がコンピューターで作り出したアート作品やゲームのアプリについて理解し、コンピューターの可能性について考えを深める。 | | | | | | | |
| | Lesson 7 Learning from Nature | ・ 生物の模倣によって生まれた製品について理解し、周りの自然や生物を改めて見直し、その素晴らしさについて考える。 | | | | | | | |
| | Lesson 8 The Wisdom of Preserving Food | ・ 保存食の歴史や多様な作り方について理解し、健康面においてだけではない、利点について考えを深める。 | | | | | | | |
| 3 学期 | Lesson 9 The Sharing Economy: Something for Everyone? | ・ シェアリングエコノミーの様々な形態やそれがもたらすメリットやデメリットについて理解し、その是非を話し合い、考えを深める。 | | | | | | | |
| | Lesson 10 Sand and Concrete: A Basis of Our life | ・ コンクリート作成に欠かせない要素である砂の不足問題について理解し、これからどうすべきか話し合う。 | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標「[B] (おおむね満足できる) の規準] | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | ・ 文の構造や内容を理解することができる。 ・ 情報や考えなどを適切に伝えることができる技能を身に付けている。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | ・ 文章の概要や要点を捉えることができる。 ・ 基本的な語句を用いて、論理性に注意して自分の考えを書いたり話したりすることができる。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・ 文章の概要や要点を捉えようとしている。 ・ 相手にわかるように、情報や考えなどを伝えようとしている。 | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | | ② | | | ③ | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト ㊨ 提出物 | | | ㊦ 定期考査 ㊧ 授業プリント ㊨ パフォーマンステスト | | | ㊦ 授業(ペアワーク含む)での様子 ㊧ 相互評価 ㊨ 提出物 | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通科 | 単位 | 2 | 教科 | 外国語 | 科目 | 論理・表現Ⅱ | |
|-------|--|--|---|----|---|------------|-----|-----|--------|-----|
| 学習教材 | ・教科書「APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅡ」開隆堂 「Workbook」開隆堂 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、 (1) 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場が異なる相手と交渉したりすることができる。 (2) 聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができる。 (3) 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。 | | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | | |
| 1学期 | Lesson 1 Reflections Before Starting a New Life Lesson 2 Let Your Dreams Come True Lesson 3 Dos and Don'ts in Social Media Lesson 4 Future Prospects | <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在と過去を表す文の理解を基に、自分や友達に興味・関心について紹介する。 ・ 未来を表す文の理解を基に、自分の将来の計画や夢について紹介する。 ・ 助動詞を使った文の理解を基に、SNS の使い方について発表する。 ・ 完了形を使った文の理解を基に、将来予測される事柄について発表する。 | | | | | | | | |
| 2学期 | Lesson 5 Let's Keep in Good Shape Lesson 6 Energy Consumptions in the World Lesson 7 Voter Turnout in Comparison Lesson 8 What Has Impressed Me the Most Lesson 9 Sports for Everybody Lesson 10 The Latest News from around the World | <ul style="list-style-type: none"> ・ 受動態を使った文の理解を基に、健康によいと言われている行動について発表する。 ・ 比較級、最上級を使った文の理解を基に、世界のエネルギー消費の実態について、問題点も含めて発表する。 ・ 同等比較、倍数比較を使った文の理解を基に、国ごとの投票率の違いについて、その背景も含めて発表する。 ・ 動名詞を使った文の理解を基に、これまでに感銘を受けた人物や本について紹介する。 ・ to 不定詞を使った文の理解を基に、年齢・性別に関係なく楽しめるスポーツについて紹介する。 ・ 分詞を使った文の理解を基に、報道番組で取り上げたいニュースについて説明する。 | | | | | | | | |
| 3学期 | Lesson 11 Let's Find Out What We Can Do for Others Lesson 12 Learn about Other Countries and People Lesson 13 Global Issues Lesson 14 Food Culture around the World | <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係代名詞を使った文の理解を基に、国内外で必要とされているボランティア活動について発表する。 ・ 関係副詞を使った文の理解を基に、将来住みたい場所について、その魅力が伝わるように説明する。 ・ 仮定法を使った文の理解を基に、環境問題や社会問題について、その解決方法を的確に説明する。 ・ 特殊構文を使った文の理解を基に、さまざまな国の食文化について、その背景も含めて発表する。 | | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 文の構造や文法事項を理解することができる。 ・ 情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して伝えることができる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的・社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の話す内容や質問に対して、適切な相槌をうちながら、きちんと耳を傾けている。 ・ 自分の考えを積極的に伝えようとしている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊦ 小テスト ㊦ 提出物 | ㊦ 定期考査 ㊦ 授業プリント ㊦ パフォーマンステスト | ㊦ 授業での発表 ㊦ 相互評価 ㊦ 提出物 ㊦ ペアワークなどの参加状況 | | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通科 | 単位 | 2 | 教科 | 情報 | 科目 | 情報Ⅰ | |
|---------|---|--|---------------------------------|----|---|--------------------------|-----|-----|-----|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「高校情報Ⅰ」(新訂版) 実教出版 問題集「高校情報Ⅰ 学習ノート」 実教出版 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークの名称や仕組みを理解できる。 (2) 情報を収集、処理、表現する技能を習得するとともに、情報技術を活用し効果的にコミュニケーションを行うことができる。 (3) 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用することができる。 | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1学期 | 第1章情報社会と問題解決 | <ul style="list-style-type: none"> 情報やメディアの特性を学習し、情報社会に及ぼす影響を理解する。 情報に関連する権利を学習し、権利を守るしくみについて理解する。 社会で利用されている情報技術について学習し、課題解決の方法を考える。 | | | | | | | | |
| | 第4章プログラミングとシミュレーション | <ul style="list-style-type: none"> プログラミング言語の種類と特徴を学習し、変数や関数を用いてプログラミングを行う。 シミュレーションの活用方法を学習し、問題解決に適した方法について理解する。 | | | | | | | | |
| 2学期 | 第2章コミュニケーションと情報デザイン | <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション形態を学習し、インターネットを活用したコミュニケーションについて理解する。 社会で利用されている情報デザインを学習し、情報を正確に伝える方法を理解する。 デジタル化の例の学習を通して、情報をデータ化する技術を理解する。 | | | | | | | | |
| | 第3章コンピュータのしくみ | <ul style="list-style-type: none"> コンピュータの構成と仕組みを学習し、ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。 二進数や論理回路の学習を通して、コンピュータの演算方法や動作を理解する。 | | | | | | | | |
| 3学期 | 第5章ネットワークと情報システム | <ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの構成について理解する。 ネットワークを通じてデータを効率よく転送するための工夫について理解する。 情報セキュリティを確保するための方法と技術の学習を通して、情報を安全に取り扱うための技術について理解する。 | | | | | | | | |
| | 第6章データの活用 | <ul style="list-style-type: none"> データの収集や、適切なソフトウェアを用いて課題解決に取り組む。 データの分析方法を学習し、データを適切に扱う方法について理解する。 | | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 用語や名称を理解しており、仕組みについて図示することができる。 コンピュータの基本的な操作ができる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 情報技術を目的に合わせて適切に選択することができる。 情報技術を用いて自分の考えを表現することができる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 授業を通して自分が理解したことを説明することができる。 グループワーク時、積極的に議論に参加し、課題解決に主体的に取り組むことができる。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ㊦定期考査 ㊧副教材の取り組み ㊨活動への参加状況 | | ㊦定期考査 ㊧副教材の取り組み ㊨活動への参加状況 | | | ㊦定期考査 ㊩各種課題等の提出物及び成果物 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 普通・英 | 単位 | 1 | 教科 | 英語 | 科目 | 上級時事英語 | |
|---------|--|--|------------------------------------|----|---|---|-----|-----|--------|-----|
| 学習教材 | CNN Workbook Intensive Course (朝日出版) | | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 英文ニュースを読んだり聞いたりして、国際ニュースや国内の時事問題に対する理解を深め、英文読解力を高める。 (2) ニュースの内容や時事問題に関して、自分の意見や考えを英語で発信することができる。 | | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | News 1 Celebrating a Cultural Megastar News 2 A Surprising Talent News 3 Good News- for Some News 4 Great Reach | ・ロンドンで「かわいい」企画展開催 ・カラスは鳴き声で4まで数える ・米加州でファーストフード店の時給が20ドルに ・万里の長城でドローンによる配達サービス開始 | | | | | | | | |
| 2 学期 | News 5 Fight to Protect the Young News 6 Do Not Disturb News 7 Revised Goal News 8 Worrying Connection | ・米14州がTikTokを提訴 若者に悪影響として ・豪で新法 労働者の「つながらない権利」保護 ・グーグル、AI導入で温室効果ガス排出量急増 ・特定のがんが若年層で増加 その理由とは？ | | | | | | | | |
| 3 学期 | News 9 Falling Trend to Continue News 10 A Major Milestone | ・止まらない出生率の低下、世紀末まで続く見込み ・南アフリカ、アパルトヘイト撤廃から30年 | | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | ・文の構造や内容を理解することができる。 ・情報や考え、気持ちなどを適切に伝えることができる技能を身に付けている。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | ・文章の概要や要点を捉えることができる。 ・論理性に注意して書いたり、話したりして伝えることができる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・ニュースの概要や要点を捉えようとしている。 ・クラスメイトにわかるように、ニュースについての情報や考え、気持ちなどを伝えようとしている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊧ ホテスト ㊨ 提出物 | | ㊦ 定期考査 ㊧ 授業プリント ㊨ パフォーマンステスト | | | ㊦ 授業での発表 ㊧ 相互評価 ㊨ 提出物 ㊩ ペアワークなどの参加状況 | | | | |